

記入年月日
平成 29 年 3 月 24 日

事務事業名		霞ヶ浦導水事業建設促進協議会参画事業						事業区分		担当	
								新規/継続	継続	事務事業No.	060305000281
政策体系上の位置付け								単独/補助	単独	所属課	010201
政策体系	総合計画の施策名		0603 時代に合った自治体運営				主要事業		企画課		
	政策名		06 みんなで築く自治のまちづくり				市長マニフェスト				
	施策名		03 時代に合った自治体運営				未来PJ事業		グループ	企画グループ	
	手段名		05 ⑤広域連携の推進				合併建設計画事業				
財務会計上の位置付け								事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計	単年度繰返し (平成6年度～)			
	01	02	01	08	01	00	企画事業	↳ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
法令根拠											

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

手 段	(1) 事務事業の概要	
	①事務事業の概要（事務事業の全体像） 霞ヶ浦や桜川（干波湖）の水質浄化、那珂川・利根川の濁水対策と新規都市用水の確保を目的とした、国営の霞ヶ浦導水事業の早期完成をめざして、国への要望活動や知識を高めるための研修会、住民への啓蒙活動を実施する。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 ・総会、研修会への参加 ・負担金の支払い

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・総会、研修会への参加 ・負担金の支払い	総会の開催	回	1.00	1.00	1.00	0.00	0.00
	国への要望回数	回	1.00	1.00	1.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
霞ヶ浦導水事業	全体事業費	億円	1,900.00	1,900.00	1,900.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
事業への理解度を高める。	参画自治体数	自治体	37.00	37.00	37.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量（事業費）の推移				28年度	29年度	30年度			期間限定 総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)			
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		0
			県支出金	千円	0	0	0		0
			地方債	千円	0	0	0		0
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0
			その他	千円	0	0	0		0
			一般財源	千円	4	4	4		4
			事業費計（A）	千円	4	4	4		4
	人件費	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人			
		述べ業務時間	時間	10.00	10.00	10.00			
		人件費計（B）	千円	29	29	29			
トータルコスト(A)+(B)			千円	33	33	33			

事業費の内訳	29年度事業費 実績 (千円)			30年度事業費 予算 (千円)		
		合 計	4		合 計	4

(4) 当該年度の実施内容

30年度の事業内容

31年度の事業内容

32年度の事業内容

※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する

- ・主要事業
- ・市長マニフェスト
- ・未来PJ事業
- ・合併建設計画事業



事務事業名	霞ヶ浦導水事業建設促進協議会参画事業	事務事業No.	60305000281	所属課	企画課
-------	--------------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
平成6年に霞ヶ浦導水事業の建設促進を図るため、茨城県及び県内市町村により組織され活動が始まった。現在の参画市町村数は、37市町村となっている。	
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	
特になし。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
現状維持	

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）	☒ 結びついている 霞ヶ浦の水質改善のため、その流入河川である桜川の水質改善を掲げており、本市の政策体系と整合している。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）	☒ 妥当である 水質浄化や濁水対策等を目的とした事業であり、公共関与は妥当である。
	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）	☒ 向上余地がない 霞ヶ浦導水事業は国の事業であり、整備促進を要望している立場上、現時点での成果の向上の余地はない。
有効性	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）	☒ 影響有 全体工事の約8割が完成しているので、事業を中止の影響は大きい。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名	☒ 余地がない 特になし
	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）	☒ 削減余地がない 必要最小限の事務に限定しており削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）	☒ 公正・公平である 受益者負担を求める性格の事業ではない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																								
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	負担金に見合う市のメリットが無いと思われるため退会を検討しているが、現段階では継続することがやむを得ない状況である。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																								
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☒ 現状維持		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持		○	×																						
	低下		×	×																						
		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果																								
		コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 ☐ A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 ☐ B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出	確認欄 ☐